

「技術士」という資格をご存じですか。船舶・海洋、航空・宇宙、金属、原子力・放射線など21部門で、専門的な知識と実務経験を積んだスペシャリストが取得する国家資格です。簡単に言うと、専門分野で、高度な知識と応用能力を認められたことの証明です。私は環境部門の資格を持っています。

大学を出て、水処理会社に就職しました。生物や化学の知識を使って水をきれいにする研究です。例えば下水処理では、細菌を使ってアンモニアを窒素ガスにして無害化します。「硝化」「脱窒」といいます。工場排水は、化学的に処理する「凝集」という技術を使います。仕事を通じて、水をきれいにし、人々の生活環境を豊かにする。やりがいとだいたい満ちた仕事です。

でも、理系の職場には、女性が少ないと感じています。技術者の仕事って暗い、汚いと、女子学生には敬遠されがちです。確かに都心のオフィス街の華やかさはありません。臨海部の工場で、穴の開いた作業着で歩き回っているイメージでしょうか。確かにその通りかもしれませんが、理系の専門的知識と技術は職場復帰の際にも助けになります。日本技術士会では、女性が不

技術士・環境カウンセラー

かくた 角田 ふで子さん(47)



11/06/08朝日(朝刊)P15

科学を説明できる表現力も

安なく技術系の仕事に就けるよう支援しています。理系の職場に、どんどんチャレンジしてくださいね。

私は勤務先の移転や子どもの受験がきっかけで5年前に退職し、今は地元の埼玉県で、市民講座の講師や小中学校の理科支援ボランティアを務めています。そこでは専門的な職場では得られなかった視点を教えられています。

市民講座の受講生から「近くの川から湯気が上がっている。大丈夫か」と質問されました。仮にお湯が流れ込んでも一時的に水温は上がるが、水質に大きな問題はありません。一般の方は、そんなことを気にしているのかと思いました。でも調べると、水温が上がると、ピラニアなど熱帯にいる魚が繁殖して生態系に変化が起きている川があるらしい。勉強になりました。

震災関連でも教えられます。例えば大きな問題になった「可能性はゼロではない」という言葉です。99・99——と9が九つ並んでも100%にはならない。ほんの少しでも可能性があれば「ゼロではない」と言うのは、理系的には正しい表現であり、専門家は「ゼロ」だと理解するでしょう。しかし「ゼロではない」と聞くと、大半の人は「危険だ」と受け止めます。「直ちに」「比較的」。これも誤解されやすい。専門家の言葉を翻訳し、丁寧に説明する必要がありますね。

「いまこそ理系」、確かにその通りです。しかし人々が漠然とした不安の中で生きている今、必要なのは数値では表せない人間の感情をくみ取って、科学を説明する表現力です。そんな文系の力も必要だと感じています。

聞き手 秋山惣一郎
撮影 内田光

14日から「夏を涼しく」をリレーします。